

\* 安全・安心で品質の良い干柿をつくるため、薬剤防除を徹底し、きれいな原料柿を生産しましょう。

\* 薬剤散布は散布ムラのないように実施しましょう。

\* 未結実樹は★を散布する。

散布日	散布時期	散布薬剤 (水100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注意事項
月 日	★ 発芽前 (3月下旬 ~ 4月上旬)	① 水(90ℓ) 展着剤 10ml 石灰硫黄合剤 10ℓ	発芽前	—	300	(黒星病) カイガラムシ類	①石灰硫黄合剤は隣接するビニールハウスにかからないようにする。 ②カイガラムシ類の発生が多い場合は、樹幹塗布を実施する。
	特別防除 カイガラムシ 多発園	※樹幹塗布 (水:アルバリン=1:1) 水(20 ml) アルバリン顆粒水溶剤 20g	発芽前	1回	20ml ~ 40ml	カイガラムシ類	③樹幹塗布は主幹部の粗皮を30cm以上削り、塗布する。 直径20cm以上の樹は40ml塗布。
月 日	★ 5月上旬	② 展着剤 10ml サムコルフロアブル 10 20ml スプラサイド水和剤 66g	前日 30日前	3回 3回	400	カキクダアザミウマ フジコナカイガラムシ幼虫 カキノヒメヨコバイ ツノロウムシ幼虫 ケムシ類	①カキノキマダラメイガ・ヒメコスカシバの発生がある場合は、ガットサイドSの1.5倍液(45日前、2回)を主幹部・主枝及び亜主枝の分枝部に散布する。
月 日	★ 6月上旬	③ 展着剤 10ml キノンド一颗粒水和剤 100g スミチオン水和剤 40 125g	14日前 45日前	5回 3回	500	落葉病、炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ オオワタコナカイガラムシ カキノヘタムシガ ドウガネブイブイ (コガネムシ類) カメムシ類、イラガ類	①スミチオン水和剤40の使用回数はガットサイドSと合わせて3回までとする。
月 日	★ 6月中下旬	④ 展着剤 10ml オーソサイド水和剤 80 100g モスピラン顆粒水溶剤 25g	7日前 前日	5回 3回	500	落葉病、炭疽病 すす点病 アザミウマ類 カイガラムシ類 カキノヘタムシガ カメムシ類	①前年、落葉病が多発した園地は、必ず散布する。 ②オーソサイド水和剤80に代えて、スコア顆粒水和剤の3000倍(前日、3回)でもよい。
月 日	7月上中旬	⑤ 展着剤 10ml キノンド一颗粒水和剤 100g	14日前	5回	500	落葉病 炭疽病 うどんこ病	①カイガラムシ類の発生が多い場合は、スプラサイド水和剤1500倍(30日前、3回)を加用する。 ②すす点病が発生する園地は、キノンド一颗粒水和剤に代えて、ベルコート水和剤1,500倍(14日前、3回)を使用する。
月 日	★ 7月下旬	⑥ 展着剤 10ml オーソサイド水和剤 80 100g オリオン水和剤 40 100g	7日前 21日前	5回 1回	500	落葉病、炭疽病 すす点病 アザミウマ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類 カキノヘタムシガ ケムシ類、イラガ類 カキノヒメヨコバイ	①前年、落葉病が多発した園地は必ず散布する。 ②オーソサイド水和剤80に代えて、スコア顆粒水和剤の3000倍(前日、3回)でもよい。
月 日	8月上中旬	⑦ 展着剤 10ml ダントツ水溶剤 50g トップジンM水和剤 100g	7日前 前日	3回 6回	500	落葉病、炭疽病 うどんこ病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ カメムシ類	①果実全体に薬液がよくかかるよう散布する。 ②(アメリカシロヒトリ)の発生園では、アディオン水和剤3000倍(7日前、5回)を加用する。
月 日	★ 9月上中旬 (着色開始期前)	⑧ 展着剤 10ml キノンド一颗粒水和剤 100g モスピラン顆粒水溶剤 25g	14日前 前日	5回 3回	500	炭疽病、うどんこ病 アザミウマ類 カキノヒメヨコバイ カキノヘタムシガ カメムシ類 カイガラムシ類	
月 日	特別散布 10月上中旬	展着剤 10ml トップジンM水和剤 100g	前日	6回	500	うどんこ病 炭疽病	①条紋から発生する裂果・ヒビ割れ部への腐敗性病害の侵入対策として有効。条紋多発園で散布する。

1. 落葉病・うどんこ病の防除のため、発生した園地の被害落葉は土中へ埋めるか、集めて焼却する。
2. 越冬病害虫(ヘタムシ・カイガラムシ類等)の密度低下のため、冬期に粗皮削りを実施する。
3. コウモリガによる食入加害の予防のため、根元は常に除草し、キレイにする。

複製厳禁